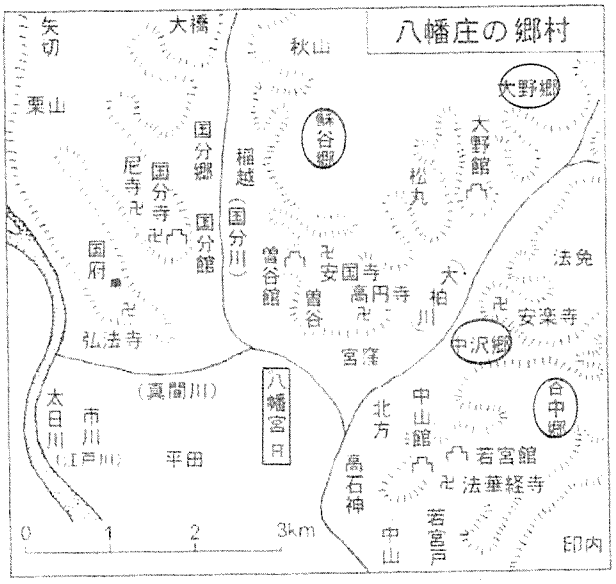
八幡門前自治会がある地区の歴史小話（令和４年７月）　回覧

１１．八幡庄、八幡村、八幡宿、八幡町

当地は、現在発見されている文字史料では平安末期の保元 3(1158)年に山城石清水八幡宮領の「下総国　葛飾別宮」として登場し、「八幡」の地名としては『吾妻鏡』の文治 2(1186)年の関東御知行国々内乃貢（＝年貢）未済注文に下総国の「八幡」と出現します。

鎌倉～室町時代にかけての**八幡庄**は、現在の市川市のうち、北西部の国府台周辺（国衙領＝公領）と南部の行徳周辺（下河辺荘）を除く市域が荘域であったと考えられ、**谷中郷**（中山、北方、高石神）、**蘇谷郷**（曽谷、宮久保）、**中沢郷**（柏井から鎌ケ谷市中沢）、**大野郷**（大野）の４郷からなっていました。門前自治会がある地区はこれら郷とは別で、石清水八幡領。



鎌倉時代は守護千葉氏の影響下にあり、その被官の富木常忍、大田乗明、曾谷教信が日蓮上人の支援者として史料に登場し、「元亨の梵鐘」の奉納者の丸子真吉もおりますが、八幡庄との関係は不明です。

室町後期の戦乱の時代を経て小田原北条氏が制圧した頃は、その臣下の高城氏（松戸市の小金城）の支配下にあったと想定されています。

豊臣秀吉の小田原征伐後に徳川家康が関東に入り、江戸期は**八幡村**として幕府領（天領）で「元禄郷帳」で 424 石（寺社領を除くと 383 石）の村高です。元禄年間に古八幡村(57 石)を分村し、西は平田村(58 石)、北西は菅野村(531 石)に接していました。

佐倉道（国道 14 号）が通り、**八幡宿**（佐倉道では、ここまでが五街道並みの道中奉行支配）が置かれました。なお宝永(1704 ～ 1710)年間に宿は**八幡町**と称しています。この地の道路網については項を改めて詳述しますが、小岩を経て市川の関所を通過後の宿駅で、次ぎは船橋宿です。 江戸から 5 里 33 町（約 24 km）と近いので、宿泊する人は少ない宿場でした（当時の人は 1 日 30 ～ 40 km歩く）。

八幡宿は現在の八幡 1 ～ 3 丁目の国道 14 号沿いで、宿往還長 10 町 20 間（約 1127 メートル）、宿内の街並の長さは 7 町 30 間（約 818 メートル）。天保 14(1834)年で宿内人数 582 人（男 302 人、女 280 人）、家数 106 軒、旅籠屋 8 軒（中規模 4、小規模 4）と記録に残っています。本陣・脇本陣は無く、東昌寺が臨時の宿泊場所です。なお東海道五十三次の宿場の平均は 18 町前後、人口は平均 4000 人（天保 14 年の調査で 24,227 ～ 564 人）の記録があります。

村民は、五穀（米、麦など主食）以外に野菜を作り、農間に男は往還稼、縄ない、女は糸取、機織などを行う。川上善六によって梨栽培が広められると、文化・文政期（1804 ～ 1830)には一帯で生産されて八幡梨はブランドとなって地区住民を潤しました。

なお江戸時代の人口は、米一石＝一人と概算されます（江戸期は全国で三千万石、人口も約三千万人)。そうすると八幡村 424 人、八幡宿（町）582 人と約 1000 人になります。